今月のトピックス

特集 会社訪問 - No.73
佐久間運輸有限会社様

# 安全と品質で築き上げてきた 70 年の歴史
# 荷主との強固な信頼関係で次代に漕ぎだす

佐久間運輸有限会社（佐久間哲夫代表取締役）は、飯岡町（現･旭市）で創業以来、長年にわたって水あめやコーンスターチなどの原料･製品等の輸送に携わってきた。

同社では、ドライバーの安全指導を徹底し、高品質な輸送サービスを長年提供し続け、主要取引先との固い信頼関係を構築。主要取引先の理解を得ながら、ドライバーの労働時間削減など、持続可能な物流の実現に向けた取り組みを着実に進めている。

同社のタンクローリーの前に並ぶ、佐久間哲夫社長（右）と佐久間陸専務（左）

## ■主要取引先と二人三脚で現場改善を推進 ドライバーの労働時間削減に繋げる

佐久間運輸㈲は、水あめやコーンスターチの原料・製品の輸送を主軸に、飼料の輸送も手がけている運送会社である。同社はもともと、主要取引先が本社を構えていた飯岡町（現・旭市）に本社営業所を置いていたが、主要取引先の移転を機に、昭和 50 年代に旭市鎌数に旭営業所を設置している。

同社と主要取引先との間では、かつては月に１度ミーティングを開催して情報共有を図っていたが、コロナ禍で一時中断。その後は、社内で主要取引先への意見や要望を事前に取りまとめた上で、荷主担当者とのミーティングで提示する形に変更している。

同社内では、「物流の 2024 年問題」がクローズアップされる以前から、ドライバーの労働時間削減を求める声が多く上がっていたという。主要取引先側でも、同社と同様の問題意識を有していたことがあり、双方が連携しながらドライバーの労働時間削減に向けた取り組みを進めてきた。

同社では、水あめやコーンスターチなどをタンクローリーで輸送しているが、異物混入防止のために、荷卸しを終えるとタンク内を定期的に洗浄しなければならない。しかし、以前はタンクの洗浄場所が不足していたため、洗浄待ちの時間が発生していた。そこで同社では主要取引先に対して要望を行い、工場内にあるタンクの洗浄場所を増設してもらった。これにより、洗浄作業の効率化と待機時間の削減を実現している。

なお、タンクの洗浄については主要取引先から指定された方法に従って行っており、まずお湯で５分間洗浄した後、10 分間タンク内を蒸気洗浄して殺菌を行う。その後、ホースとの接続部をアルコールで拭きとっている。

「着荷主の多くが大手菓子メーカーであるため、タンクの洗浄作業に対するチェック体制は非常に厳しいものがあります。しかしながら、『私たちが運んでいる水あめやコーンスターチは、いずれ消費者の口に入るものである』と考え、タンクの洗浄作業はもちろんのこと、積み卸し作業においても清潔さを最優先にしながら作業を行っています」（佐久間社長）

佐久間　哲夫
代表取締役

タンクローリーの清掃作業は高所作業にも該当することから、墜落や転落のリスクが伴う。同社では、高所作業の際には安全帯とヘルメットの着用を義務付けているほか、雨の日や風の日は特に墜落や転落のリスクが高まることから、ドライバーに対して慎重に作業を行うよう指導している。

また、同社における事故防止に向けた取り組みとしては、２か月に１度ドライバーを集めての会議を行い、ヒヤリハット事例の共有や車両点検整備の指導、社内での適性診断の実施などを通じて、安全意識向上を図っている。特に、高齢ドライバーは年齢を重ねるに連れて反応速度が低下する傾向にあることから、65 歳以上のドライバーに義務付けられている適齢診断を受けさせ、加齢による身体機能の変化や運転行動への影響について認識してもらい、事故防止に繋げている。

「私たちは、お客様からお預かりしている荷物を安全に輸送することを第一の使命として、常に真摯に安全対策に取り組んできました。当社の安全性向上への取り組みを評価いただき、令和４年度には陸上貨物運送事業労働災害防止協会（陸災防）から安全衛生表彰『進歩賞』を頂戴することができました。今後も、高品質な輸送サービスを提供し続けていくために、労働衛生管理の改善向上に努めたいと考えています」（同）

一方で、ドライバーの労働時間削減に関しては、主要取引先でも、同社のトラックの工場への入出場時間のデータを分析し、同社と連携してドライバーの労働時間削減に向けた取り組みを進めている。

同社では対面点呼を実施し、特にドライバーの体調面に気を付けるようにしている

運行中の予期せぬ車両トラブルを防ぐために、始業点検に力を注いでいる

同社のドライバーによる安全輸送の継続が、荷主からの高い信頼感に繋がっている

また、持続可能な物流に関する主要取引先の理解が得られたことから、運賃交渉についても応じてもらっている。ただ、運賃引き上げ分については、ドライバーの労働時間削減を進めるために人員増と車両増に充てており、十分な賃上げに結びつけることはできていないという。

さて、同社のドライバーの１日の仕事の流れをみていくと、多くのドライバーは早朝３時から４時ごろにかけて旭営業所を出発し、同社の車庫から車で５分ほどの場所にある主要取引先の工場で積み込みを行い、朝一番に着荷主先に納品を行い、主要取引先の工場内でタンクを洗浄してから再び輸送にあたる。多くのドライバーが、昼前には乗務を終えるという。

同社の輸送範囲は基本的に関東一円だが、一部で福島県や静岡県までの輸送もあるという。同社では、長距離運行に関しては、持ち回りで担当ドライバーを決めるようにしており、特定のドライバーに負担が集中しないよう配慮している。また、配車スケジュールは運行前日までにスマートフォンのメッセージアプリケーションで全員に伝達し、運行スケジュールが出発直前までなかなか決まらないことによる焦りから来る事故などを防いでいる。

同社には現在 18 人のドライバーが在籍しているが、多くが勤続 20 年～ 30 年以上のベテラン揃いとなっており、従業員の定着率の良さが大きな特長になっている。最高齢のドライバーは 70 歳になっているという。一方で、近年では 20 代のドライバーの入社もみられるようになっている。20 代のドライバーに同社の魅力について聞くと、「同社の車庫と主要取引先の工場が近く、無駄な時間がない」、「朝は早いものの、昼過ぎには帰宅することができる」、そして「以前は成田空港で航空貨物の輸送にあたっていたものの、荷待ち時間が多かったことから、同社の門を叩いた」――などの声が上がっている。

さて、同社は創業者である先代社長（佐久間社長の父親）によって昭和 33 年に設立され、今日に至るまで 70 年近くにわたる歴史を重ねてきた。佐久間社長は、経理の専門学校を卒業後、昭和 59 年に同社に入社。運送の仕事を覚えるために１か月の半分ほどはトラックに乗務する一方、残りの半月ほどは主要取引先で積み込み作業の手伝いを行い、急遽他のドライバーが休んだ時には代わりに乗務に出るようにしていた。その後、配車業務にも携わるようになり、平成 12 年ごろには健康面で不安があった先代社長に代わって経営実務を担うようになっていた。先代社長が亡くなったことを受けて、15 年に佐久間社長は２代目社長に就任したが、その後もしばらくは叔父が専務として在籍していたため、専務と一緒になって会社の繁栄に向けて取り組んだ。

現在は、佐久間社長の次男である陸氏が入社し、専務として同社の経営を支えている。佐久間専務は高校卒業後に別の運送会社に入社して食品輸送にあたっていたが、21 歳になるとすぐに大型自動車免許を取得した上で、同社に入社。入社当初はドライバーとして乗務にあたっていたが、ドライバーが増えてきたこともあって、現在ではドライバーのバックアップ役として乗務にあたることもある一方で、運行管理者資格を取得して配車業務も行っているという。

「当社はこれまで 70 年近い歴史を積み重ねてきました。将来の３代目候補として、これまで培ってきた当社の歴史を決して途絶えさせることのないよう、精進していきたいと考えています」（佐久間陸専務）

今後に向けては、同社では旭市と匝瑳市を結ぶ東総広域農道沿いに 1000 坪の土地を確保していることから、将来的に営業所の移転を視野に入れているという。

「当社では、ドライバーへの安全指導を徹底し、高品質な輸送サービスの提供を通じて、お客様からの信頼を獲得してきました。今後もお客様からの信頼に応えることのできる運送会社を目指して、社業に懸命に取り組んでいきたいと考えています」（佐久間社長）

## ホットにゅーす

### ■ゴルフで広がる仲間たちとの絆 自然と向き合う至福の時間

佐久間社長は、30 代の頃は休みになるとスキーやサーフィンを楽しんでいたが、近年はゴルフを楽しむことが多いという。地元の運送会社の仲間達や地元企業の関係者などとのプレーを通じて、交流を深めるとともに、情報交換の場としても活かしているという。

「ゴルフは季節を感じることのスポーツである一方で、自然との闘いの場にもなっています。ゴルフの魅力は、自然とスポーツが織りなす至福のひと時にあると言えるでしょう」（佐久間社長）

佐久間社長は、週末になると東庄町のゴルフ場で仲間たちとゴルフを楽しんでいる

**企業プロフィール**

**佐久間運輸有限会社**

代表取締役　佐久間　哲夫
所在地　千葉県旭市飯岡 2486（本社）
　　千葉県旭市鎌数 9397（旭営業所）
従業員　20 人（うちドライバー 18 人）
車両数　23 台